

刊行にあたって

本号には、特定研究「中・近世における東国と西国」に関連する論文5編を収めています。本研究は、『日本歴史における地域性の総合的研究』の三つの課題の一つとして昭和60年度から平成2年度まで6年間にわたって続けられたもので、その目的は日本の社会や文化を研究するにあたり、東日本と西日本の地域差が中世・近世にはどのようなものであり、いかなる役割を占めていたかを究明することにあります。実施に際しては、6カ年を3期に分けて昭和60・61年度は「支配形態」、昭和62・63年度は「生産様式」、平成元・2年度は「流通」をそれぞれ中心テーマとして研究を進め、各テーマごとにメンバーの入れ替わりもあって、参加したメンバーの数は延30名になりました。また、研究が終了した年の平成3年7月には、研究代表者であった本館情報資料研究部長田中稔教授が病いのため逝去されました。

この研究に基づく論文の発表については、メンバーが多いこともあって1冊の研究報告特集号としてまとめるのではなく、各メンバーが書き上げた時点で個別に研究報告通常号に発表する方針を決めていまして、すでに3編の論文が発表されています。しかし、田中稔教授の突然の逝去という事態にあたって、本館としては論文報告通常号第45集を追悼号として編集・刊行することとなり、館内外の関係者に寄稿を呼びかけたところ、予想を越えた多数の論文が集まり、1冊で刊行することが困難になりました。そこで、集まった論文のうち本特定研究に関連する論文を別冊にまとめ、第46集として刊行することになった次第です。したがって、本号は研究代表者であった故田中稔教授への追悼の意を込めた、特定研究「中・近世における東国と西国」の特集号という形を取ることとなりましたが、本研究に関連する論文発表はこれで終るわけではなく、今後も随時通常号に個別に発表されるはずです。

終りにりましたが、故田中稔先生のご冥福を衷心からお祈りいたします。

国立歴史民俗博物館情報資料研究部

濱 島 正 士